

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和7年3月22日

事業所名

みんなのりずむ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12		活動内容によりグループ分け等しながら机と椅子の配置を変えながら活動している。
	2 職員の配置数は適切である	12		子供の特性に応じグループ分けし、担当を決めることにより配置している。余裕を持った人数で対応しているため、一人ひとり十分目が行き届き活動内容も広がる。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12		生活の場は広い空間になっていて、危険なものは取り除いている。室内はバリアフリー対応になっている。緑の絨毯、マットの上だけなどと子どもに解りやすく伝え、区分けし室内全体に死角を少なくし職員間で声掛けを行いながら工夫している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12		利用者を迎える前、朝の環境整備、清掃を行っている。次亜塩素スプレーを使用し、毎日の環境整備の徹底により感染対策を行っている。（取っ手、ドアノブ、使用した玩具など）定期的に換気を行っている。備品や布団類など綺麗にまとめ整理整頓を行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		アンケート配布を行い意見や指摘を頂き、改善点があれば可能な限り対応している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	2	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12		定期的に施設内研修を行い外部の研修にも参加している。先日もオンライン等での研修に参加しレポートを提出している。研修の機会も皆確保され行われている。研修やミーティングで職員同士の情報共有をしている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12		問題点を挙げ計画を立て、職員、家族に確認し計画を実施している。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	1	医療機関や児童相談所等でのアセスメントや判定を用いて支援を行っている。必要に応じて更新、変更を行っている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11		一律の書式でアセスメントを作成し必要に応じてその都度更新している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12		定期的に計画の見直し評価をし、職員全員、家族が確認を実施している。職員全員が共有できるように分別し見直し、気付きなど書き込みをしている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	12		週一回ミーティングを行い、保育士中心に日案、週案の計画を立てている。ミーティングを行い月案、週案を職員間で立案している。朝の会で活動内容を発表し情報共有している。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12		ミーティング時、計画継続、変更を確認している。季節の活動や制作を立案時に取り入れている。定期的にミーティングを行い職員同士で意見を出し合いながら常に新しい活動内容を取り入れている。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	12		計画は立てているが、個別は本人の状況によって変更することもある。集団は職員が間に入り盛り上げている。定期的に会議を行っている。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12		毎日ボードに内容を書き、利用者にあった活動をしている。 月案掲示や申し送りノートを活用し情報共有できるようにしている。 職員間で打ち合わせを行い、朝の会にてリーダーが発表をし、全員が分かるようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12		ミーティングで職員が共有し、同じ対応ができるよう検討している。 気が付かなかった情報などは常に報告を行い申し送りノートなどに記載している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12		本人にとって興味を示す、嫌がる事を職員間で伝えている。 毎日支援の記録を取って、これからどうしていくかなど検証し改善に繋がられている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12		担当の職員が行い、ミーティング、朝の会などで他の職員に伝授している。 モニタリングを行い支援計画を見直しなど定期的に行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12		必要に応じ連携を行い、その後も職員間に伝達し情報共有をしている。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12		医師の診療情報提供書に基づき支援している。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	12		医師の診療情報提供書を書いてもらい、変更がある場合、変更後の診療情報提供をもらっている。 必要時に医療機関とカンファレンスを行っている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12		利用者に対し疑問点等ある場合、担任の先生に聞き参考にしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	7	対象児が居ないため 外出時に触れ合うことはあるが計画的に交流はしていないと思う。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12		子ども部会が今年度から作られ、会議、お祭り等参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12		気になったことなどを保護者へ伝え、どのようにして行ったほうがいいのかなど、お互いに話し理解を持つようにしている。
保護者への対応	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	8	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12		支援計画書の内容については保護者の同意の上、ご署名、捺印をもらっている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		電話か連絡帳、LINE、送迎時など随時相談を受けている。 保護者様との個別面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12		

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	毎日の行動予定を保護者にメール等で伝え情報を共有している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12	鍵のかかる棚に保管している。 鍵付きの書庫で保管し事業所でのみの閲覧の徹底。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	必要に応じジェスチャー、絵カード、ピンポンなどの合図で使用している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	地域のイベントに参加したり事業所で作ったものを出店している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	マニュアルは作成してある。問題点をマニュアルに沿って対応している。 マニュアルを策定し発生を想定した訓練を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	避難訓練、消火器の使い方はできている（避難場所なども） 定期的に避難訓練を行い、消火活動なども子供と行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	薬の変更、追加処方家族から薬情を持参されるため把握することができている。 タイアップの預かりをし、医師による指示書に対応できるようにしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	診療情報提供書を家族に聞き、アレルギーのある利用者は食事のネームにアレルギーを書き、確認しながら食事を提供している。 保護者への聞き取りを行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	ヒヤリハットがでたら職員全員が目を通し、捺印して共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	オンライン研修を行いレポートの提出により虐待に関し知恵を深めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	原則身体拘束は行っていない。